

**授業概要**

心理学実験は、受講生自身が実験者や実験参加者を経験することによって、心理学的知見が生み出されていく過程を具体的に習得することができる、非常に重要な科目である。この授業は次年度開講の「心理学実験」の受講の基礎となる知識を講義するとともに、受講生が実際に実験を実施し、そこで得られた結果をふまえ、現象に対する問題意識に対する回答を報告する技術の修得を指導する。

まず、心理学の多様な研究方法のうち、因果関係の検証に最も適した方法である研究方法である実験法の特徴を講義する。次に、実際に実験を実施し、実験の計画立案から報告書（実験レポート）の執筆に至る一連のプロセスに必要な技能を指導する。

なお、この科目は公認心理師カリキュラムに対応する科目である。

**授業計画**

第 1 回	ガイダンス（授業の進め方・成績評価、など）
第 2 回	心理学研究における実験法（1）なぜ心理学で「実験」をするのか
第 3 回	心理学研究における実験法（2）実験の種類と特徴
第 4 回	心理学研究における実験法（3）因果関係を検証するためのしくみ①（独立変数・従属変数）
第 5 回	心理学研究における実験法（4）因果関係を検証するためのしくみ②（剰余変数）
第 6 回	実際の実験（1）幾何学的錯視の実験
第 7 回	実際の実験（2）データのまとめ方について①（要約統計量の算出）
第 8 回	実際の実験（3）データのまとめ方について②（図表化）
第 9 回	実際の実験（4）報告書の書き方について
第 10 回	中間まとめ：心理学における実験法の意義について（兼中間レポートの提出）
第 11 回	デモンストレーション（教員の企画する実験への参加①）
第 12 回	デモンストレーション（教員の企画する実験への参加②）
第 13 回	実験を実施する際に注意すべきこと：倫理的問題について
第 14 回	中間レポートの返却と再作成
第 15 回	全体のまとめ（再作成したレポートの提出を兼ねる）
第 16 回	定期試験

**到達目標**

実際に実験を実施し実験レポートを執筆すること、実験レポートの添削結果を振り返ること、以上の2点を経て、心理学における研究成果の報告方法を理解する。

**履修上の注意**

- ・実験レポートの執筆には授業時間外にもかなりの負担を要するため、注意すること。
- ・同時期に開講される「心理学統計法Ⅰ」や「心理学研究法」の授業内容の一部と関連がある。これら関連する講義の内容も含めて理解を深める姿勢をもってほしい。
- ・次年度に開講の「心理学実験」の履修では、この授業で学んだ知識・身につけた技能を発揮する必要がある。授業の連続性を理解しながら履修を進めてほしい。
- ・実際に実験を行う週は、教室を変更して実施する可能性がある。連絡事項に注意してほしい。実験は参加者の協力によってはじめて成立するものである。受講するのであれば、真剣に受講してほしい。特に、実際に実験を行う週は、理由のない欠席や遅刻は他の受講生の迷惑になるため、そのようなことがないように努めてほしい。

**予習・復習**

特に予習は必要ないが、なるべく事前に授業プリントを配布するので、テキストと共に目通ししておくといよい。また、中間レポートの作成にあたっては授業時間外にも多くの作業をすることになるので覚悟すること。

**評価方法**

評価の内訳は、平常点（授業態度、提出物に関する約束事の遵守の程度）が4割、2つの中間レポートが2割、定期試験が4割である。第1回の講義で、評価方法の詳細を説明する。

**テキスト**

- ・教科書名：心理学基礎実験を学ぶ：データ収集からレポート執筆まで
- ・著者名：大和田智文・鈴木公啓（編著）
- ・出版社名：北樹出版
- ・出版年（ISBN）：978-4-7793-0483-5